

天敵製剤ミヤコカブリダニを用いたオウトウのハダニ類防除

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

加温促成オウトウコンテナ栽培において、ナミハダニに対するチリカブリダニの利用法については普及に移す技術(第77号)「参考資料」で示した。今回、それに加えて天敵製剤ミヤコカブリダニの利用法を確立したので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 加温促成栽培のオウトウにおいて、ハダニ類(ナミハダニおよびカンザワハダニ)の防除には天敵製剤ミヤコカブリダニが有効である(図-2, 3)
 - a 放飼方法: ミヤコカブリダニが入った容器を放飼直前にゆっくり回転させて均一に攪拌した後、所定量の製剤をペーパータオル等で軽く包んで、各樹の主枝または側枝上の2箇所程度に引っ掛ける(図-1)。
 - b 放飼時期: 圃場でハダニ類が見え始めた発生のごく初期とする。
 - c 放飼量: 1樹当たりの放飼量は50ml~60ml(200頭~240頭)とする。
(天敵製剤1本で8~10樹に放飼できる。)
- 2) ミヤコカブリダニはナミハダニ、カンザワハダニのいずれに対しても同程度に密度を抑制する。
- 3) 放飼2~3週間後のハダニの発生箇所に見られない場合は追加放飼を行う。

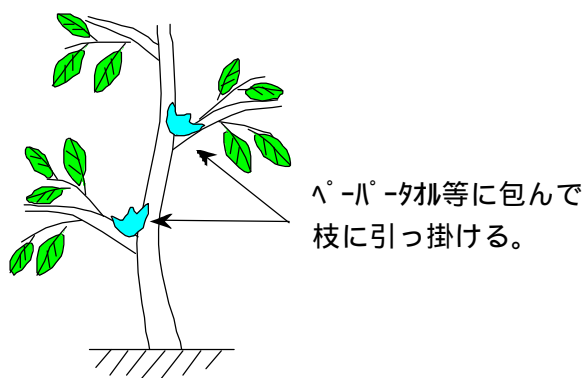


図-1 放飼の方法

3 利活用の留意点

- 1) オウトウに使用できるミヤコカブリダニ製剤は「スパイカル」である。(「スパイカル」は「果樹類」として登録)。
- 2) 天敵製剤は入手後直ちに放飼する。
- 3) 天敵放飼後は天敵に影響のある薬剤は散布しない。また、天敵放飼前に天敵に影響のある薬剤を散布した場合、残効による影響期間を経過した後に放飼する。
- 4) 栽培様式は、加温促成のオウトウコンテナ栽培で、収穫後も継続して雨よけ環境下で管理する。
- 5) 本天敵製剤は500mlポリエチレン瓶1本に成虫2,000頭含有、価格は1本6,000円程度である。
- 6) 本製剤は新JAS法に適合し、農薬散布回数にカウントされないため、有機栽培・特別栽培農産物でも使用できる。

(問い合わせ先: 農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8123)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間 果樹の減農薬栽培技術の確立
平成12年～16年

2) 参考データ

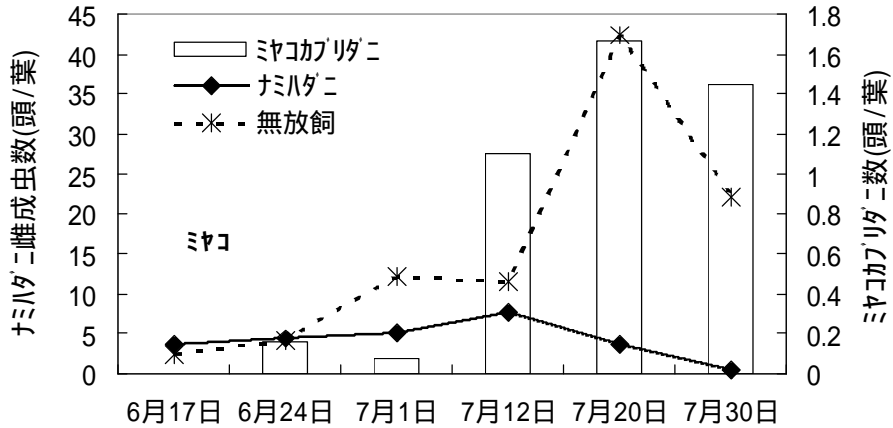


図 - 2 ナミハダニとミヤコカブリダニの発生推移 (2004年)
(放飼月日: 6月17日, 放飼量: 240頭/樹)

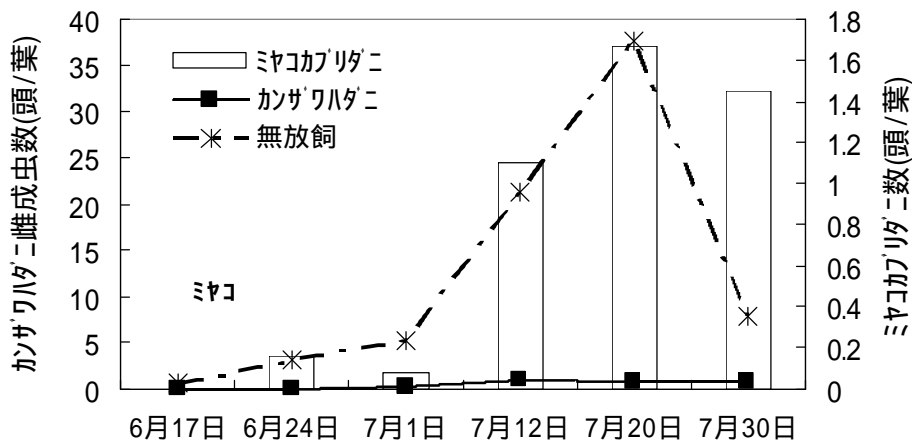


図 - 3 カンザワハダニとミヤコカブリダニの発生推移 (2004年)
(放飼月日: 6月17日, 放飼量: 240頭/樹)

調査後半は、無放飼区にもミヤコカブリダニが侵入したため、
無放飼区の日ダニ類密度も低下した (図 - 2, 3)。

3) 発表論文等
なし